

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 19 日

評価対象事業	健福 - 37	障害者社会参加促進事業	☐ 法定受託事務
所管課	健康福祉部 障害福祉課		評価者 障害福祉課長 勝 勇樹
一般	会計	款 15	項 5
目 15			
総合計画上の位置付け	分野名	健康福祉	施策の方針名 多様性のある福祉サービスの充実

1 事業の目的

対象	障害者等	意図	在宅の障害者等の社会参加及び外出を支援するため。
効果	障害者等の社会参加の促進を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	福祉タクシー利用料金の助成、手話通訳者の派遣等	福祉タクシー利用料金の助成、手話通訳者の派遣等	福祉タクシー利用料金の助成、手話通訳者の派遣等
予算額（千円）	43,396	41,028	
国県支出金	1,853	1,768	
地方債			
その他			
一般財源	41,543	39,260	0
当初人員配置数	4.2	3.7	0.0
人件費（千円）	13,672	11,370	0
事業実績	福祉タクシー利用料金の助成、手話通訳者の派遣等		
決算額（千円）	32,732		
国県支出金	3,654		
地方債			
その他			
一般財源	29,078	0	0
人員配置実績数	3.9	0.0	0.0
人件費（千円）	10,908	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	手話講習会及び要約筆記講習会の開催回数	回	74	⇒	76		
活1	実績につながる活動	手話講習会及び要約筆記講習会の開催				1,806		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・神奈川県の実験の難易度は高く、手話通訳者及び要約筆記者を増やすためにも、登録を希望する者に対する細やかなフォローが行える体制づくりが求められる。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No (最大3つ)
成1	手話通訳者等の登録者数	人	32	↗	32			1
成2	福祉タクシー券・自動車燃料券・福祉有償運送券の合計利用枚数	枚	37,230	↗	40,064			

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標（アウトカム）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・聴覚障害者等が日常生活を営む上で、情報の取得及び利用並びに他者との意思疎通にとって必要不可欠なものとして、事業を継続する。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	手話通訳者等の登録者を増やすことで、聴覚障害者等の社会参画を支える基盤を強化し、必要とする方への確実な手話通訳者等の派遣を継続する。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☒ 十分に出ている	☐ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性		受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→ ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 → 事業へ統合
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	本事業は、聴覚障害者へのコミュニケーション支援や、タクシー券支給などの各種制度により、障害児者の社会参加を支援しているものである。今後も現行制度の維持に努め、障害者の社会参加を支援していく。			上位施策への寄与度
					B

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	手話通訳者の窓口設置状況								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	週5日		週5日	週5日			週4日	週5日	週1日
	8時30分～17時		9時～16時	8時30分～17時			8時30分～17時	8時30分～17時	13時～17時

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	手話通訳支援員の窓口設置については、平成30年度の設置時間は半日であったが、令和元年度には設置時間を拡充し、他市と同等の設置となった。また、令和2年度から月15日以内勤務の会計年度任用職員2名が勤務する体制とし、今後も継続していく。
----------------------	--